

ふなかわら



目次

- | | |
|--|---|
| 1. 同窓会会長挨拶（黒崎浩巳）…………… 2 | 1) 9期の同期会 |
| 2. 学部長挨拶（武田 健）…………… 3 | 2) 22期の同期会 |
| 3. 同窓会総会・特別講演（林 高春）…… 4
禁煙教育について | 6. 2001年度 会計報告 …………… 7 |
| 4. 実践社会薬学講座 …………… 5
1) オリエンテーリング
2) 薬局・病院部門
3) 企業部門 | 7. 2002年度 予算 …………… 8 |
| 5. 同窓会だより …………… 6 | 8. 新生薬学部誕生 …………… 9
理大までの路線図・野田キャンパスMAP |
| | 9. 東京理科大学薬学部同窓会役割分担 ……11 |
| | 10. 埼玉県薬剤師会の薬剤師職業斡旋 ……12 |
| | 11. 編集後記 ……………12 |

同窓会会長挨拶

東京理科大学薬学部同窓会会長 黒崎 浩巳



薬学部同窓会の皆さんこんにちは。皆さんはそれぞれの領域でご活躍のことと思います。

3月20日に始まったイラク戦争は終結しましたが、その後のイラク復興は戦争以上に困難のようです。

新型肺炎（SARS）は、世界の限定された地域で発生していますが、WHOの発表によると5月9日現在で死亡500人超、患者数は7000人以上とされています。死亡率は15%以上あるいは、エボラ出血熱以上ではないかとも言われています。日本ではまだ一人も患者は発生していませんが、打つ手が無い現状では今後も心配されます。

日本国内は、相変わらずのデフレ不況で、企業の収益が上がらず人員削減が続いています。完全失業率は、5、3%と若干下がったとはいえ国内地域によって大きな差があるようです。政府の経済政策も多くの抵抗があって思うように進んでおらず困ったものです。

我々薬剤師は、幸い失業の波の影響を受けにくく、売り手市場の状況ではありますが、永年懸案の薬学教育6年制への移行は、既に実現の方向に進んでいることから、薬剤師としての日頃の研鑽による更なるレベルアップが望まれるところです。

母校東京理科大学薬学部は、今年3月末を以って船河原から野田の新校舎へ移転しました。今までの古くて狭くて使いにくかった校舎と比べて、余裕あるインテリジェント校舎での勉学研究は、大いにはかどり今後の立派な成果が期待されます。

ここ1年間の薬学部同窓会の活動報告とこれからの計画についてご報告致します。

昨年5月から7月にかけて恒例となっている「実践社会薬学講座」を行いました。7回を数えるこの講座は、学外でも注目されてきており、同窓会活動の一つとして大きな実績を上げてきております。これも偏に多くの同窓生の方々のボランティア講師としての積極的な参加の賜物と感謝しております。今年には野田の新校舎で5月17日から8年目の講座として開催されますが、都心から離れた野田

校舎まで出かけて講座に協力して下さる同窓生の方々には心から敬意を表し、お礼申し上げます。

同窓会報「ふなかわら」は昨年5月に発行しました。今年も同じ時期の発行となりますが、野田に移転した新校舎についての特集を組みましたので、どうぞご一読下さい。

今まで薬学部同窓会の懸案課題は会員の組織率が低く、残念ながら20数%程度でしかありませんでした。創設当初から正会員を増やそうと多くの幹事が知恵を絞って参りましたが、なかなか妙案が見つかりませんでした。そこで若年層の方々の入会率を少しでも高める方策について若い幹事を中心とする企画担当幹事に努力して頂いた結果、「高額な入会金制度を止めて、年会費制に変更する。」案がまとまり、幹事会に提案されました。幹事会での承認を受けて昨年7月の同窓会総会で審議して頂き、可決承認を得ました。この会則変更（変更内容は今号の「ふなかわら」に掲載）によって、今後の新会員の加入増加が期待され、ここ数年の赤字決算の改善が見込まれます。

薬学部の野田新校舎への移転に伴い、当然のことながら我々の同窓会事務室の移転も必要となりました。同窓会用の備品としては、コンピュータ、電話、ファックス、書棚、机、椅子の他かなりの保管資料等がありますので、野田での場所をどうするかが悩みの種でした。しかし大学側のご好意により保管場所を確保して頂けることになりましたことは大変有難く、感謝致しております。

同窓会幹事に若い年次の方にも入ってもらい、斬新な意見を提案して頂こうと勧誘を検討しておりますが、その前に現在の幹事の役割の明確化を目的とした提案が幹事会に出されました。その内容は、現副会長4人が中心になって（教育担当（石井）、新規事業担当（上村）、広報担当（寺山）、事務局担当（石坂））夫々担当責任者となり必要な幹事を推薦して活動して頂くという提案で承認されました。今後は、この方針で進めることに致しました。

昨年大変残念だったことは、同窓会の早期から会計や監査関係等でご活躍頂いた村松延弘氏（9回生）が昨年5月20日に急逝されたことです。当時会計幹事をお願いしておりましたので、7月の総会までに平成13年度の会計報告がまとまらず、総会では不十分な報告で一応ご了解を頂きました。後日複数人の幹事によって精査監査し、幹事会で了承を得ております。この不手際に対して会長として心よりお詫び申し上げます。

同窓会としても村松氏という惜しい人材を失い、この上なく残念です。

今年と同窓会総会は、7月19日(土)移転先の野田新校舎で開催することにしております。当日は施設内の見学会も予定しておりますので、是非ともこの機会に同窓会総会への出席と併せて新校舎の見学にも参加されますようご案内申し上げます。

今後とも薬学部同窓会の活動に対しましてご協力の程をお願いし、ご挨拶と致します。

学部長挨拶

学部長 武田 健

薬学部はこの3月年末に、神楽坂から野田キャンパスに無事引越しました。激変した生活環境に漸く慣れ、少しずつ教育研究が軌道に乗りかけたところです。皆さんすでにご存知のように平成11年に将来検討委員会が発足し、神楽坂キャンパスと野田キャンパスにおける教育研究をいかに活性化させていくかが議論され、神楽坂地区の研究環境の急速な改善とポストゲノムをにらんだライフサイエンスの重点化及び新しいビジョンを持った薬学部の再構築を推進するとの結論に至りました。その結果、理工学部、基礎工学部、生命科学研究所及び多くの研究センターと有機的連携を持った薬学部を約50万m²の広大な敷地を誇る野田地区に展開し、リサーチパーク型キャンパスを構築すること、また、新生薬学部のコンセプトはファーマコインフォマティクス（くすりの作用に関する総合情報科学）とすることなどが合意されました。薬学と情報技術（IT）を融合させた新しい学問分野の展開をはかり、両者に精通した人材を育成することが目標の一つになります。

こちらに来てから野田周辺のことを少しわかってきました。野田市は利根川、江戸川、利根運河に囲まれた水と緑の町です。徳川家康は江戸に幕府を開くとすぐに利根川とその支流の江戸川の治水を命じ、江戸湾に注いでいた利根川の流れを銚子へと変えました。そのため、利根川と江戸川を繋ぐ水運が発達し、野田は交通の要所として、また醤油の製造で栄えることになりました。明治23年利根川と江戸川を結ぶ運河が建設され、銚子から江戸への輸送が著しく短縮されました。一時は1日平均100隻の船が往来したそうです。やがて

運河はその役目を終え、洪水対策としての治水や農業用水として利用されてきましたが、今では全長8キロメートルの水と緑の素晴らしい眺望をもった一大公園として生まれ変わっています。私も毎日、早朝に運河の土手を歩いていますが、一般のハイキング、サイクリングコースとして皆様にもお勧めします。野田キャンパスはその運河大公園に沿って展開するまさに緑の学園といえます。

21世紀の生命科学の大きな流れは、ヒトゲノム情報を活用したゲノム創薬とゲノム医療を確立することにあり、薬を理論的に創る「ゲノム創薬」が益々加速され、さらに、患者の遺伝子体質をゲノムワイドで網羅的に解析し、薬物応答性、薬物耐性、副作用の発現などを予測するゲノム診断と患者各人に最適化されたいわゆるテーラーメイド医療が行われることが期待されています。そこで本学では、平成13年に日本の大学では初めてのゲノム創薬研究センターを学術フロンティア研究事業として設立しました。当センターは構造ゲノム科学、細胞シグナル制御、分子設計創薬、遺伝子・細胞治療の4部門からなり、各部門には、薬学部だけでなく他の生命系学部学科教員や外部研究者が参加し、内外に開かれた研究所として注目を集めています。アポトーシス制御性医薬品を開発するリード化合物の創製と前臨床試験を目標に成果を挙げつつあります。また、薬物送達システムを研究するDDS（drug delivery system）研究センターをこの4月に新たに立ち上げ、企業研究者と共同して薬物の有効利用と副作用軽減のための研究を進めています。また、創薬研究を支える

最新の設備を持つ分析科学センターを設置しました。一方では、医薬品の適正使用をはかる高度な教育研究体制を築き上げるため、情報技術をベースにした医療薬学教育研究センターを設置しました。医療薬学、情報薬学の教育研究体制を強化し、学外医療機関や地域薬剤師会と連携しながら、医療現場のニーズに即した新しい医療薬学研究を進展させる拠点となることが期待されています。

薬学部は上記センター群と一体となり、薬学の柱となる生命、創薬、医療、環境衛生の4分野の科学を相互に連携、統合させながら発展させていく予定です。そのベースとなるファーマコインフォマティックスの構築を支援するため、薬学部内に創薬情報科学センターを設置しました。このセンターは理工学部情報科学科や情報メディアセンター、計算科学フロンティアセンターと連携、協力しながら薬学における情報技術の教育と研究を推進していきます。計算科学フロンティアセンターに設置作業中のスーパーコンピューターは共有メモリ型並列計算機で全世界のトップ128位の性能を誇り、薬学部内の創薬情報科学センターと端末で繋がります。また、情報メディアセンターでは多くのコンピューターをネットワークを介して

連携させたグリッドコンピューティングを用いて多数の人が議論しながら共同作業できるシステムを開発し、新薬の分子構造の設計などに活用しています。当学部では将来はゲノム創薬研究のみならず、バーチャル創薬研究をも視野に入れて教育研究を展開していきたいと考えています。すでに教育面では、7年前からコンピューター教育を徹底しており、充実した施設と高度なカリキュラムで全国トップレベルのコンピューターを活用した薬学教育を実施しています。

長い間薬剤師教育の年限延長の問題が議論されてきましたが、漸く薬剤師教育は6年で行うという合意が得られたようです。医療の高度化、国民の健康志向、患者本位の医療が求められるといった社会的な状況の中で、医療チームの一員として応分の責任を果たすことができるよう、本学部としても真剣にかつ積極的に6年制の問題に取り組んでいきたいと考えています。

野田移転後も学外でご活躍の卒業生の皆様には実践社会薬学、医療薬学など講義や実習、研究などで多大なご協力を戴いており、感謝申し上げます。学部発展のため、今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いする次第です。

同窓会総会 特別講演

禁煙教育について

東京衛生病院（荻窪）名誉院長 林 高春

たばこは魅力的な嗜好品として宣伝され、若者の間では喫煙者の新しい世代の誕生が続いている。しかし喫煙による健康被害はすでに明らかになり、一般大衆にも伝えられて、現在では不潔な悪い習慣という認識から薬物依存という認識に変わりつつある。喫煙習慣にニコチンが関与していることはよく知られているが、その他にも条件反射（いわゆるクセ）や環境、性格などの影響も加わって、禁煙を困難にしていることが多い。

たばこのヤニ（タール）には発ガン物質が含まれていることが証明されてから、ヤニ（タール）を減らすためにフィルター付きの低タールたばこが開発され、更に超低タールたばこも開発されて多くの健康志向の喫煙者に受け入れられているが、彼らの死亡率、罹患率には変化が認められていな

い。そのみならず、超低タールたばこへの転向が、禁煙を考慮している多くの喫煙者の決断を遅らせ、喫煙習慣の継続を助長しているのではないかと憂慮されている。さらには一酸化炭素の摂取は増えているとの報告もある。

いわゆる禁煙法として多くのプログラムが開発されているが、依存喫煙者は不快なニコチン離脱症状に悩まされることが多く、また喫煙習慣は禁煙後も再発しやすく、禁煙に成功するまでには数回（ある調査では平均4回以上）の再喫煙を経験していることが報告されている。何れの方法でも1年後の離煙率は20%前後と言われ長期性成功率は高くない。

そのため昨今では行動科学的介入やニコチン製剤の使用が禁煙支援の主流になっているが、禁煙をいかに長期に維持させるかが課題となっている。

実践社会薬学講座

オリエンテーリング

11期 石井 甲一

船河原校舎での最後の実践社会薬学講座が、平成14年5月18日から7月6日の期間で行われました。平成8年から数えて7回目になりました。毎年新しい講師も加わり、講義内容もマンネリにならず、すっかり薬学部の年中講座として位置づけられたような気がします。前回と大きく異なっただのは、それまで前半を企業関係、後半を薬局・病院関係の講義にしていたのを、今回は逆にしたことです。講義終了後は、黒崎同窓会会長から学生に挨拶があり、その後食堂において立食による懇親会を行いました。誠に簡素なものでしたが、学生さんも多数参加し、大いに盛り上がっていました。

私はこれまでと同様に、初日の冒頭で、本講座の開催理由などガイダンスを担当しました。医薬分業が40%を超える等薬剤師を取り巻く環境が大きく変化していることを、できるだけ分かりやすく解説したつもりですが、話が進むうちにつき専門用語を使ってしまい、いつもの通りの反省となりました。

今回は、企業も、薬局・病院もロールプレイを採用して、学生も大変楽しんでいました。来年度からは、野田校舎での講義となり、講師は大変だと思いますが、さらに充実したものにしたいと思います。

薬局・病院部門

23期 上村 直樹

薬剤師免許を活かす職場として学生にアピールしてきましたが、本年度は更に、大学ではなかなか学べない患者の存在というものを意識づけるような講義をしようということでスタッフ一同が一致しました。病院からは、妊娠と薬の相談外来の話やHIV・AIDS治療の話などがありました。薬局からは、患者さんとのコミュニケーションや相談事例、また薬局経営に関わる話まで多岐に渡りました。ロールプレイングは病院と薬局を分けてみましたが、調剤という仕事のやりがいは、同じであることを理解していただいたと思います。卒業して3年以内という新人薬剤師にも多数来て頂き、学生とのディスカッションに参加して頂き

ました。やはり学生と年齢が近いせいか、普段は手を挙げない学生からも多くの質問が寄せられびっくりしました。その中では、臨床現場の薬剤師の研究や学会参加等の質問や薬局での情報収集の方法などの質問があり、学生のアカデミック指向がよく分かりました。また、就職後も旅行にいいのか？といった現実的な質問も出ていました。

企業部門

11期 安達 順一

実践社会薬学を始めて早いもので7年を迎えてしまいました。当初はどれだけ学生さんに受け入れていただけるか分かりませんでしたし、講師もなれていなくて、講義の方法・資料がまちまちで、学生さんからの反応を確かめながらのものでした。

しかし、最近はパソコンできれいなスライドを使えると同時に、若い人も加わって色々と変化にとんだ内容となってきて、ずいぶんと進歩をしたように感じています。学生さんの参加も、年々多くなる感じでも嬉しく思います。またそれだけに授業を提供する責任も感じております。ただ、この授業はあまり堅く考えずに企業で働く卒業生がどのような仕事につき、どのような内容のことを日々行っているかをストレートに伝えることが大事と思っています。薬学部を卒業はしたけれど、皆何処で何をしているのだろうか。いま勉強していることは役に立つのであろうか、さらには今後何を目標に勉強をしたら良いのかを少しでも伝えられたら、また感じ取っていただけたら目的を達成できたのではないかと考えています。

学生さんからの授業を受けた後の感想を見させていただくと、かなり多くの方が先輩方の話を参考にしてくれていることが分かり、授業をやってよかったなと感じています。

ただし、今後の改善点としては、もっと学生さんとの交流のある、ディスカッションが出来るような授業もあって良いように思われますし、学生さんも積極的に質問をしてくれることを望みます。毎年多くの先輩が授業をボランティアで行ってくれていることは、とりまなおさず、母校をまた後輩にがんばってほしいと言う気持ちの現われと思います。

今後も先輩方のご協力を宜しくお願い致します。

同窓会だより

9期の同期会

昭和47年に卒業の9期の同窓会が昨年7月13日、飯田橋駅近隣のレストラン「トリノ」で開催されました。

これまで同期会はオリンピックの年、即ち4年ごとに開催することを申し合わせていましたが、同期の皆さんの多くから卒業後30年の節目の年ということもあり2年ぶりの開催になりました。

当日は37名の同期の出席がありました。一方、当日は同窓会総会が開催されており、同窓会総会の懇親会が9期の同期会と合同で行うという形式になり全体では60名を超える盛会となりました。

懇親会に出席しておられた、同窓会会長の黒崎浩巳氏（1期生 現：都立保健衛生大講師）と同窓会副会長の石井甲一氏（11期生 現：日本薬剤師会 専務理事）の挨拶も拝聴することができました。

今回の同窓会では薬学部に残っておられ、毎回私ども同期会の世話をしてくれた村松延弘氏が同窓会の直前6月20日に急逝され、彼の経過についても報告がありました。

村松氏のこともあり、お互い50歳を過ぎて健康にはくれぐれも気をつけようということで散会しました。（岩本）

22期の同期会

22期の同期会が桜のつぼみがほころびかけた平成15年3月23日（日曜日）午後4時から飯田橋のアグネスホテルにて開催されました。当日は天候にも恵まれ、同期会開催の30分前に薬学部校舎まえに集まった26名が、野田移転のための引越しトラックの発着の合間を見計らって、なくなってしまふ校舎を背景に集合写真撮影を行いました（写真？）。ホテル会場には、来賓としてお招きした石坂隆史先生（薬学部同窓会副会長）を含め54名が集まり、22期同期会代表幹事の岩鍛治氏からの開会の辞、石坂先生からの薬学移転に関する経緯等のお話があり、乾杯後、22期の同期会が始まりました。会場では、4年ぶりの再会を懐かしむとともに、昔話や現在の状況等の話で、料理がなかなか減らないくらいみなさんが話しに夢中になっていました。また、会の中ほどで上村直樹氏（薬学部同窓会副会長）から、薬学部同窓会の主旨や活動報告、入会のすすめ等の話があり、これらに賛同した多数の方が、薬学部同窓会への会費を納入されたとお聞きしております。午後6時に会は終了しましたが、2次会にも約半数の方が参加され、夜遅くまで話は尽きませんでした。最後になりましたが薬学部同窓会より3万円の補助をいただき会が滞りなく運営できたことに感謝いたします。



2001年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会

2001年4月1日～2002年3月31日

収入の部 内訳	金額	支出の部 内訳	金額
同窓会費(41件)	730,000	人件費	262,200
預金(普通、定期)利息	4,471	電話代	64,018
講演会参加費	9,000	諸案内状印刷発送費	729,731
雑収入	670	封筒印刷代	25,200
		郵便代(切手、はがき、後納)	80,069
		講演会謝金	50,000
		講演会経費・打ち上げ援助	35,000
		実践社会薬学打ち上げ援	105,735
		ホームページ設定・維持費	4,074
		運動会寄付金	50,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		交際費	3,150
		同期会協賛金(2件)	60,000
		文具・事務経費	4,388
		小原先生献花	15,960
合計	744,141	合計	1,539,525

前年度繰越金	22,828,921
今年度残高	-795,384
次年度へ繰越	22,033,537

資産内訳

定期預金(UFJ)	10,000,000
郵便定額預金	11,000,000
郵便局振替口座	501,040
普通預貯金	532,497
計	22,033,537

以上の通り会計報告いたします

平成14年11月16日

会計

山口 稽子



監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

平成14年11月16日

会計監査

降矢 美智子
高井 幸恵



2002年度予算

東京理科大学薬学部同窓会

2002年4月1日～2003年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,000,000	人件費	250,000
預金(普通、定期)利息	4,000	電話代	100,000
		諸案内状印刷発送費	1,200,000
		郵便代(切手、はがき、後納)	80,000
		講演会謝金	50,000
		講演会経費(交通費等)	30,000
		実践社会薬学打ち上げ援助	100,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		交際費	6,300
		同期会協賛金	60,000
		文具・事務経費	5,000
		予備費	72,700
合計	2,004,000	合計	2,004,000

新生薬学部誕生

本年4月、約50万 m^2 という広大な敷地を持つ野田キャンパスに東京理科大学薬学部が移転しました。新校舎は延べ床面積2万1000 m^2 と神楽坂校舎の1.5倍の大きさの地上5階建て。講義棟、研究棟、厚生棟の3棟からなり、500名収容の特大大教室、階段教室、学生ホール、食堂なども設置されています。

野田キャンパスには、生命科学研究所、理工学部の応用生物科学科、基礎工学部の生物工学科などがすでに設置されていますが、今回の薬学部の移転により、既存の施設と薬学部が一体になった生命・創薬・IT・環境・新素材をキーワードとしたリサーチパーク型キャンパスへと再構築されていくことになります。

(写真参照：薬学部新校舎)

住所：〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

TEL：04-7124-1501（代表）

【アクセス】

●東京方面から

JR「上野」発常磐線もしくは「北千住」経由の営団地下鉄千代田線にてJR「柏」、東武野田線大宮方面に乗り換えて4駅目。JR「上野」発常磐線を利用した場合は、「上野」から運河駅までは約60分。

●千葉方面から

JR「船橋」から東武野田線にて運河駅までは約60分。

●大宮方面から

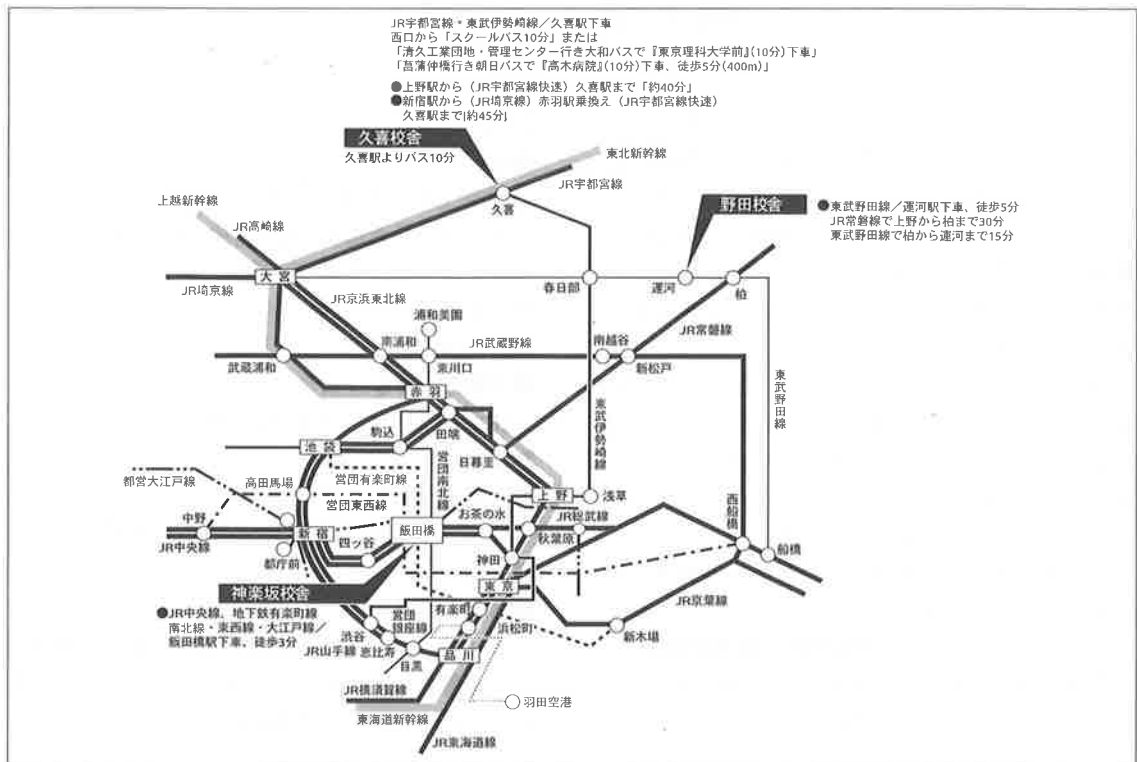
JR「大宮」から東武野田線にて運河駅までは約60分。

●八王子方面から

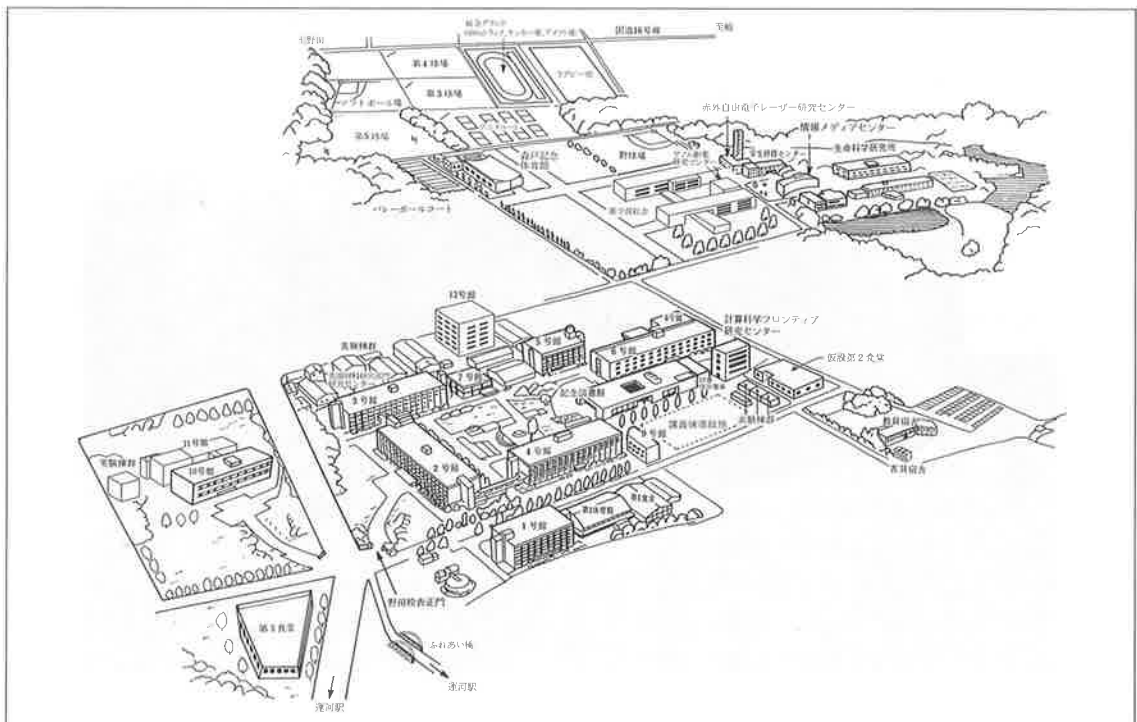
JR「西国分寺」から武蔵野線を利用。「新松戸」にて常磐線に乗り換え、「柏」駅からは東武野田線で、運河駅までは約100分。



理大までの路線図



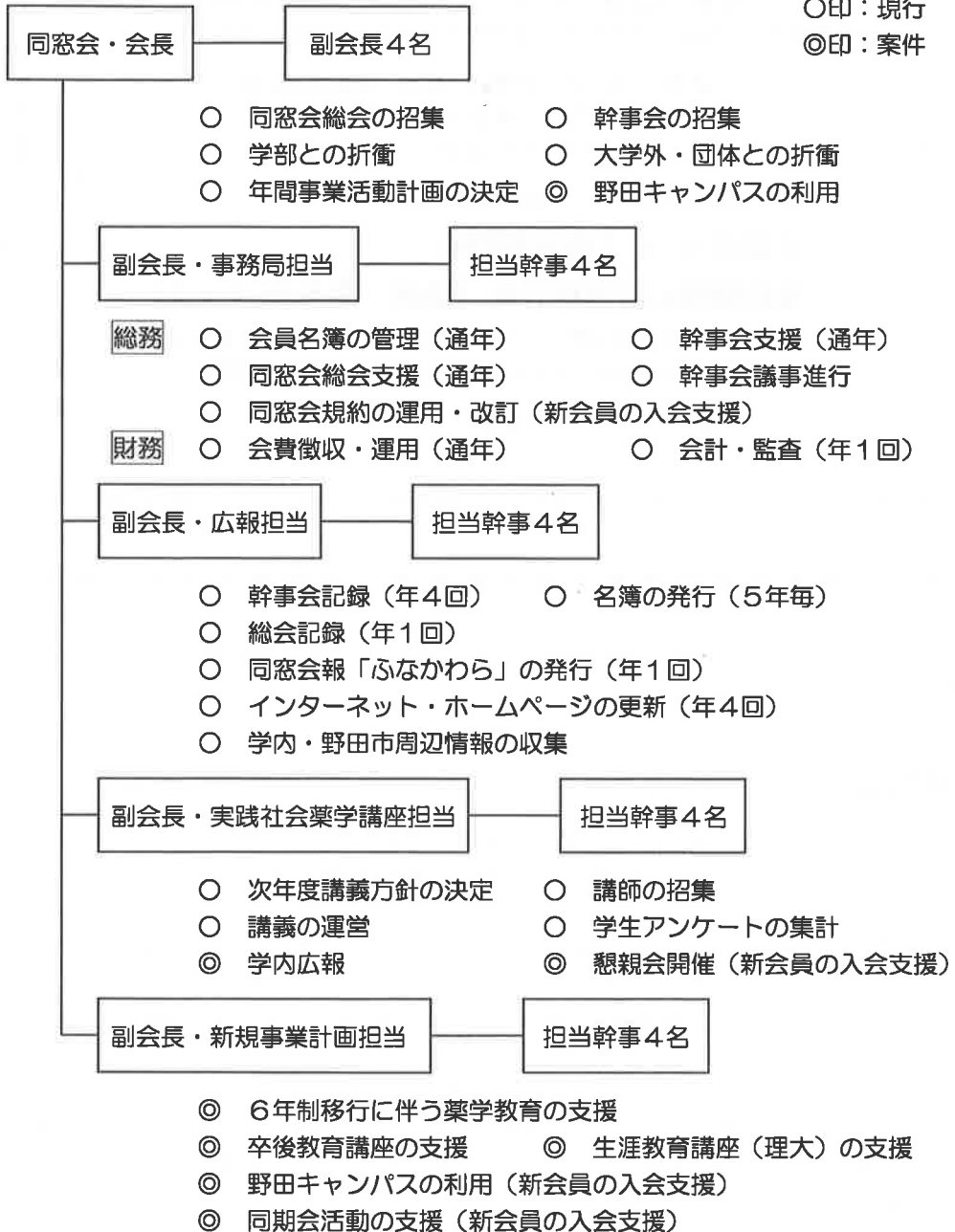
野田キャンパス MAP



東京理科大学薬学部同窓会 役割分担

平成15年1月25日現在

○印：現行
◎印：案件



埼玉県薬剤師会の薬剤師職業斡旋

(社) 埼玉県薬剤師会 薬剤師バンクのお知らせ

埼玉県薬剤師会では、薬剤師無料職業紹介所（薬剤師バンク）を開設しております。転職・再就職にかかわらず、埼玉県内に勤務希望の方、また、薬剤師不足に悩んでおられる求人の方もどうぞお気軽にご利用下さい。

登録受付日：月～金曜日（祝日・年末年始を除く）

来所受付時間：午前 9 時 30 分～11 時 30 分

午後 1 時 00 分～ 4 時 00 分

厚生労働大臣許可 11-03-ム-0002

社団法人 埼玉県薬剤師会

薬剤師無料職業紹介所（通称：薬剤師バンク）

〒331-8631 埼玉県さいたま市北区土呂町 1 丁目 50 番地 4

TEL (048) 653-5261 FAX (048) 652-6060

ホームページアドレス <http://www.saiyaku.or.jp>

e-mail bank@saiyaku.or.jp

編集後記

今年の会報づくりは、薬学部野田への移転というあわただしい時期と重なり、幹事の皆さんにとっても、いっそう忙しい作業となりました。まずは完成です。出来ばえはいかがでしょう。

心配されていた「遠い」とか「時間がかかる」「昼食はどうする」などの問題も、「慣れ」と「熱意」で克服して頂いたようで、幹事会の出席率も良い。さすがです。

薬学部の新しい研究棟と講義棟のモダン（表現が古いでしょうか）な建物や、緑に囲まれた広々とした芝生で憩う学生の姿を目にすると、神楽坂での学生生活とは違ったキャンパス・ライフがあるんだろうと、今とこれからの学生諸君がうらやましい気がします。

薬学部同窓会で記念樹を植えて寄付します。今年で8年目を迎える「実践社会薬学」の講義も軌道に乗り、学生とOB・OGが教え合ったり学び合ったりしています。同窓会総会もあります。秋には「薬学講座」があります。

新しい「ふるさと」、野田の薬学部へ、是非おでかけ下さい。